

第2章 総社市域の災害の歴史

(地域の災害の歴史を調べる)

20数年前、NHKの教育テレビが特別番組を作った時、備中高松城の水攻めを取り上げ、我が家に伝わる品を取材に来たことがある。番組のタイトルは「天候が歴史に影響を及ぼした」というような題で、その時取材に来た人が、水攻めのあった1582年は記録に残る程雨の多い年だったので水攻めが成功した。もしその年が空梅雨だったら水攻めは成功せず、歴史は変わって秀吉は天下人になってなかったかもしれないと話していた。

天正10年、秀吉は本能寺の変で織田信長が明智光秀に討たれていた事を秘して、城に立て籠もる兵や農民5,000人の命そして毛利と織田の和睦と引き換えに、清水宗治や兄の月清入道（備後守宗知）等へ切腹を申し入れた。申し入れを受け、翌日の6月4日早朝、湖上に舟を漕ぎ出し、城兵、農民5,000人、秀吉・宇喜田軍3万人、援軍の毛利軍4万人の見守る中、清水宗治は月清入道の謡う本誓寺に合わせて舟の上で一差し舞い、見事切腹して果てた。他の3人もこれに続いた。歴史上この様な大舞台での切腹は他に無いと思う。秀吉はすぐ様、京に上り明智光秀を討って天下人へと階段を駆け上がる。

私はNHKの取材以来、水攻めの歴史とあわせて水害の歴史を調べるようになり、ある時1591年に岡山県備前にあった「福岡の市」が吉井川の氾濫で消滅したことを知った。「福岡の市」は西日本有数の市で黒田官兵衛が北九州の一部を所領した時、備前の「福岡の市」のように繁栄してほしいとの願いと官兵衛の先祖が備前福岡にいたことから福岡という名をつけた。その洪水で長い間日本で一番の刀の生産をしていた吉井川沿岸の刀鍛冶が殆ど死に絶え、備前では刀の生産はすたれていった。

今回東日本大震災の被害を見て、私の住んでいる総社市の災害の歴史を調べて、行政に今後の防災に役立ててもらおうと思い、総社ライオンズクラブの事業として総社市の災害の歴史、特に高梁川の氾濫による水害の歴史をまとめようと思った次第である。

この事業を進めるに当たって総社ライオンズクラブ、アイヘルス・社会福祉・献眼献腎推進委員長で総社市長の片岡聡一氏にご尽力頂いた事に感謝申し上げ、合わせて資料作成にご協力頂いた総社市総務課と総社市教育委員会の皆様に深く感謝申し上げます。

(総社市域を中心とする主な災害の年表 江戸時代～平成時代)

岡山県には高梁川、旭川、吉井川の三大河川があり、高梁川は岡山県のほぼ半分、岡山県西部を流域面積に持ち、総社市域は高梁川

下流域にあり、瀬戸内海に面している倉敷市より北に位置する。

総社市域を中心とする主な災害の年表（江戸時代～平成時代まで）

年	月 日	災害区分	出 来 事	備 考
1573～1591（天正年間）		風水害	高梁川氾濫し清音地域に水害あり（都窪郡誌）	
1661（寛文元）	5.29	風水害	高梁川大洪水、美袋地区でも被害甚大（昭和町史）	
1673（延宝元）		風水害	5/14 高梁川大洪水（昭和町史） 5/7・5/28 赤浜で洪水 男女4人 牛2疋死す（総社再発見）	
1687（貞享4）	9. 9	風水害	備前・備中大風雨（岡山県水害史）	
1702（元禄 15）	7.28	風水害	備前・備中大風雨で洪水、高潮にて破損（岡山県水害史）	
	8.29	風水害	再び大風雨で洪水（常盤村誌）	
1707（宝永4）	8.19～	風水害	備前・備中大風、洪水、高潮（岡山県水害史）	宝永地震（M 8.4）
	10. 4	地 震	岡山で地震。この年の11月に富士山が噴火し宝永山が出現（岡山の災害）	
1708（宝永5）	6.22	風水害	大風雨がかった（常盤村誌）	
1712（正徳2）	6. 2	風水害	備前・備中大風洪水（岡山県水害史） 中島（現：清音上中島）前にて水位3～4m高	
	7. 2	風水害	再び大風雨で洪水（岡山県水害史） 中島前にて水位3～4m高	
1716（享保元）	6. 8	風水害	備前・備中大風洪水（岡山県水害史）	
1718・1719（享保3・4）		飢 饉	享保の大飢饉	
1721（享保6）	閏7.11	風水害	大風洪水（岡山県水害史） 柿木堤防決壊（水損難渋太平記）	
1729（享保14）	8.19	風水害	大風洪水 備中国中潰家多い（常盤村誌）	
	9.14	風水害	再び大風雨、流家・潰家甚大（常盤村誌）	
1738（元文3）	4. 1	風水害	洪水（常盤村誌）	
	6. 1	風水害	昼ころより増水（常盤村誌）	

総社市域を中心とする主な災害の年表（江戸時代～平成時代まで）

年	月 日	災害区分	出 来 事	備 考
1745（延享2）	6. 4	風水害	高梁川洪水 井尻野村の堤防決壊（十二カ郷用水史）	
1764～1772（明和年間）		飢 饉	現総社市域含む中国地域で旱魃続く、明和の飢饉（昭和町史）	
1778（安永7）		風水害	軽部中島境堤防決壊（水損難渋太平記）	
1781（天明元）		風水害	新本川氾濫 新本観世地区死者約 20 名（新本誌） 大風雨（昭和町史）	
1782・1783（天明2・3）		飢 饉	旱魃で美袋村飢饉（昭和町史）	
1789（寛政元）	6.18	風水害	洪水氾濫す（吉備郡史）	
1792（寛政4）	7.26	風水害	暴風雨秦村福谷では家屋 20 件倒壊（吉備郡史）	
1802（享和2）	8. 6	風水害	備前・備中大風雨洪水（岡山県水害史）	
1805（文化2）		風水害	洪水 井尻野一帯が浸水（岡山の「災害」を科学する）	
1808（文化5）	5.29	風水害	備前・備中大風雨洪水（岡山県水害史）	
	閏6.29	風水害	大風雨洪水（岡山県水害史）	
1811（文化8）	5. 6	風水害	大雨 水位 4～5 mの氾濫（岡山県水害史） 1 丈 3 尺余の氾濫（常盤村史）	
1826（文政9）		風水害	中島境堤防決壊（水損難渋太平記）	
1836（天保7）		飢 饉	大洪水、凶作も重なり翌年まで餓死者続出（昭和町史）	
1850（嘉永3）	6. 1	風水害	柿木・軽部中島・古地村前 3ヶ所堤防決壊大洪水（水損難渋太平記） 大洪水で川筋井堰・土手全壊（昭和町史）	
1853（嘉永5）	8. 8～ 8.23	風水害	8/8 大暴風雨（昭和町史）、8/19 大地震、また 8/22 以降大雨・大風各地で土砂崩れ（総社再発見） 8/23 5～6 mの洪水（常盤村誌）	8/19の大地震は記録に具体的様子の記述なし、記録の信憑性に疑問あり
1854（嘉永7・安政元）	11.15	地 震	11/15 午後6時ごろ地震あり。夜11時ごろにも余震あり。（岡山の災害） 18日まで度々大地震あり、美袋村では地盤に亀裂、底口より青泥噴出し、崖崩、家屋震倒（昭和町史）（※安政南海地震は嘉永7年旧暦の11月5日発生）	安政南海地震(M8.4) 安政元年は旧暦で11月27日から

総社市域を中心とする主な災害の年表（江戸時代～平成時代まで）

年	月 日	災害区分	出 来 事	備 考
1880（明治 13）	7. 1	風水害	高梁川大洪水 美袋地区約 20戸流失,57戸半壊（昭和町史）, 真壁恵地新田20余町歩・民家10数戸流出（常盤村誌）, 槇谷川でも洪水 池田地区でも大被害（池田村治山事業誌・総社市史通史）	
1882（明治 15）	8. 5	風水害	槇谷川洪水 池田地区被害（池田村治山事業誌）	
1884（明治 17）	8. 5	風水害	槇谷川洪水 池田地区被害（池田村治山事業誌）	
1886（明治 19）	9.11	風水害	高梁川洪水 美袋地区5戸流失, 堤防決壊（昭和町史）, 真壁西堤防決壊（常盤村誌）中原・柿木・軽部など被害	
1893（明治 24）	8. 5	風水害	高梁川洪水 美袋地区堤防決壊（昭和町史）	
1892（明治 25）	7.22	風水害	高梁川洪水 下倉村・日美村・富山村で堤防決壊家屋流失溺死者あり（昭和町史） 堤防持ち堪えるも用水から村内流入浸水（常盤村誌） 足守川堤防決壊三須地区に氾濫す（都窪郡誌）	
1893（明治 26）	10.14	風水害	高梁川大洪水 日美村堤防決壊, 家屋流失63戸, 半壊家屋95戸, 溺死者3人, その他昭和地区内でも被害甚大（昭和町史） 湛井堰・堤防決壊 常盤村人家200戸浸水, 培達尋常小学校校舎1棟倒壊（常盤村誌） 清音村堤防決壊6ヶ所, 三須村十二カ郷用水樋決壊で大被害（清音村誌） 槇谷川流域では比較的被害少（池田村治山事業誌） 湛井堰近郷だけで死者160人（岡山学9） 真備町384世帯のうち19棟のみが残った。死者180人。岡山県下で423人の死者	
			10/11未明から連日の降雨で13日夜半から暴風雨となる。雨量のピークは14日の正午前後。浅尾村（湛井）で湛井の堤防が決壊し, 死者5人, 流壊40戸。高梁川の水位は9.6mで堤防より1m前後高くなる。（現在の堤防の改修前）（岡山の災害）この水害を契機に明治40年に工事着手し, 44年から堤防工事, 大正14年に現在の堤防が築かれた。	
1909（明治 42）	11.10	地 震	撫川町（現岡山市）で強震（岡山の災害）	「岡山の災害」の他には記述なし

総社市域を中心とする主な災害の年表（江戸時代～平成時代まで）

年	月 日	災害区分	出 来 事	備 考
1927（昭和2）	3. 7	地 震	北丹後地震（M7.3）	
1934（昭和9）	9.20・21	風水害	室戸台風。ただし、高梁川の総社市から下流は大正末期に改修し堤防が耐え安泰であった。（岡山の災害） 旭川流域では死者145人	
1943（昭和18）	9.10	地 震	鳥取地震（M6.0）	
1944（昭和20）	9.17	風水害	枕崎台風 吉井川流域で死者不明者129人。上流の英田郡、勝田郡河川氾濫	
1946（昭和21）	12.21	地 震	21日午前4時15分ごろ発生。安政元年依頼の大地震（岡山の災害） 岡山県で51人の死者	南海地震（M8.0）
1947（昭和22）	7. 9	風水害	9日から10日の雨量は約65ミリ。吉備郡総社町井尻野の岡山・新見間の県道土砂くずれ（岡山県気象災害誌）	
1954（昭和29）	9.25～26	風水害	洞爺丸台風。25日から27日の雨量は約50ミリ。岡山市の瞬間最大風速は秒速35.2m。総社市：負傷者8人、全壊60棟、半壊49棟、床下浸水30戸ほか（岡山県気象災害誌）	
1956（昭和31）	8.27～30	風水害	26日から31日までの雨量は約100ミリ。新本川支流の木村橋が流出（岡山県気象災害誌）	
1966（昭和41）	5.21～22	風水害	20日から23日までの雨量は約150ミリ。総社市で山崩れ2件（岡山県気象災害誌）	
	6.30～7.1	風水害	31日から2日の雨量は100ミリ前後。総社市：田が20ha冠水（岡山県気象災害誌）	
	9.17～18	風水害	9日から10日の雨量は約150ミリ。総社市：床上浸水2戸、床下浸水3戸、山崩れ2件など（岡山県気象災害誌）	
	9.23～25	風水害	台風24号と秋雨前線。23日から25日までの雨量は約95ミリ。総社市：道路破損2件（岡山県気象災害誌）	
1967（昭和42）	7. 8～9	風水害	7日から10日の雨量は約170ミリ。総社市：堤防決壊1箇所（場所は不明）（岡山県気象災害誌）	
	7.11～12	風水害	11日から13日の雨量は約97ミリ。総社市：全壊1棟ほか（岡山県気象災害誌）	
1968（昭和43）	7.15～16	風水害	総社市：床下浸水35戸（岡山県気象災害誌）	

総社市域を中心とする主な災害の年表（江戸時代～平成時代まで）

年	月 日	災害区分	出 来 事	備 考
1970（昭和 45）	5. 6～ 7	風水害	6日から8日の雨量は約50ミリ。総社市：7日に谷川が氾濫、裏山の土砂が流出（長さ50m、幅10m、厚さ3m）、家屋半壊1棟、非住家1軒、道路損壊5箇所（岡山県気象災害誌）	
1971（昭和 46）	6.27～28	風水害	総社市：28日に土砂崩れ（場所は不明）（岡山県気象災害誌）	
	7. 1	風水害	30日から2日の雨量は約80ミリ。総社市：負傷者1人、半壊1棟ほか（岡山県気象災害誌）	
1972（昭和 47）	7. 9～13	風水害	過去に例を見ない水害 総社市：雨量291.5ミリ、日最大116.5ミリ、時間最大25ミリ 総社市：重症1人、軽症2人、全壊2棟、半壊2棟、床上浸水68戸、床下浸水150戸 堤防崩壊：総社 - 高梁間で数ヶ所の堤防が崩れる。 総社市秦で土砂崩れ 日羽の最高水位：7/12 6時 8.38 新成羽川ダム放流：ピーク12日午前3時 毎秒2,774m ³ （以上の記録は岡山県作成「昭和47年7月災害誌」） 岡山県下では死者14人（岡山県警本部調べ）	
1976（昭和 51）	9. 8～13	風水害	台風17号と前線 県東南部に豪雨 総社市付近は8日から14日の雨量約450ミリ 総社市：負傷者2人、半壊7棟、床上浸水102戸、床下浸水572戸、橋梁流出（場所不明）3件、堤防決壊（場所不明）2件、山崩れ64件ほか （以上の記録は岡山県気象台作成「岡山県気象災害誌」） 岡山県下で死者18人（岡山県警本部調べ）	
1995（平成 7）	1.17	地 震	阪神淡路大震災（M 7.3）	
2000（平成 12）	10. 6	地 震	鳥取県西部地震（M 7.3）	総社市で震度4
2001（平成 13）	3.24	地 震	芸予地震（M 5.5）	総社市で震度3

総社市域を中心とする主な災害の年表（江戸時代～平成時代まで）

年	月 日	災害区分	出 来 事	備 考
2011（平成 23）	9. 2～ 4	風水害	台風 12 号 総社市久代で 2 日から 3 日の 43 時間雨量 198 ミリ。日最大 166 ミリ 時間最大 30 ミリ。 雨量に限れば昭和 47 年より多い。 日羽の最高水位：10.33 m。酒津の最高水位：10.26 m 上流ダムの放流：ピーク 3 日 12 時前後 毎秒 2,029m ³ 総社市：床上浸水 7 戸、床下浸水 62 戸 市内 6 箇所に避難勧告	

（注）○数値、日時などは、手元にある資料をもとに作成したもの。そのため、他の資料と比較した場合に数値等が異なる場合がある。
○同じ災害でも数値等が異なるものは、多い数値を記述した。

地震のみ抽出

年	月 日	災害区分	出 来 事	備 考
1707（宝永 4）	10. 4	地 震	岡山で地震。この年の 11 月に富士山が噴火し宝永山が出現（岡山の災害）	
1854（嘉永 7・安政元）	11.15	地 震	11/15 午後 6 時ごろ地震あり。夜 11 時ごろにも余震あり。（岡山の災害） 18 日まで度々大地震あり、美袋村では地盤に亀裂、底口より青泥噴出し、崖崩、家屋 震倒（昭和町史）（※安政南海地震は嘉永 7 年旧暦の 11 月 5 日発生）	安政南海地震（M 8.4） 安政元年は 旧暦 11 月 27 日から
1909（明治 42）	11.10	地 震	撫川町（現岡山市）で強震（岡山の災害）	「岡山の災害」の他 には記述なし
1927（昭和 2）	3. 7	地 震	北丹後地震（M 7.3）	
1943（昭和 18）	9.10	地 震	鳥取地震（M 6.0）	
1946（昭和 21）	12.21	地 震	21 日午前 4 時 15 分ごろ発生。安政元年以来の大地震（岡山の災害） 岡山県で 51 人の死者	南海地震（M 8.0）
1995（平成 7）	1.17	地 震	阪神淡路大震災（M 7.3）	
2000（平成 12）	10. 6	地 震	鳥取県西部地震（M 7.3）	総社市で震度 4
2001（平成 13）	3.24	地 震	芸予地震（M 5.5）	総社市で震度 3

（注）○数値、日時などは、手元にある資料をもとに作成したもの。そのため、他の資料と比較した場合に数値等が異なる場合がある。
○同じ災害でも数値等が異なるものは、多い数値を記述した。

(総社市域以外の高梁川流域の災害の年表)

上房郡史から抜粋した災害の年表

西 暦	月	災 害 の 内 容
567		大水あり，民飢える。
601	5月	大雨
623		長雨のため大水あり 五穀登らず。
636	5月	長雨大水あり。
680	8月	大雨あり
691 (朱鳥 5)	4月～6月	雨降り大水あり
914 (延喜 14)	6月	洪水あり
916 (延喜 16)		洪水あり
918 (延喜 18)	8月	また洪水あり
929 (延長 7)	7月	洪水あり
948 (天曆 2)		秋大雨あり
962 (応和 2)	5月	長雨のため大水あり
1134 (長承 3)		洪水あり
1151 (仁平元)	7月	大水
1175 (安元元)	6月	長雨のため洪水
1627 (寛永 4)		大水
1655 (明暦元)		洪水あり 高梁町にては満水 1 丈 5 尺 (約 4.5 m)
1729 (享保 14)	8月 9 日	松山洪水あり 損害甚だしい
	9 月	中津井村洪水にて 7 日晚より降雨益々はげしく。14 日の朝より大雨となり，晩刻洪水となる。所々の堤防が決壊し，人家に侵入し字町は流失が最も甚だしかった。
1730 (享保 15)	8月 20 日	松山洪水あり 損害甚だし

西 暦	月	災 害 の 内 容
1772 (安永元)	8 月	大雨農作物を害す
1823 (文政 6)		大水あり
1836 (天保 7)		5 月より長雨続き、7、8 月洪水となり
1850 (嘉永 3)	6 月 3 日	中井村湛水にて西方川氾濫し、定光寺奥 80 箇所 mountain 崩れ 流失家屋 21 軒 板倉藩主から救助米
1880 (明治 13)	7 月 1 日	高梁川大洪水 上房郡：罹災戸数 598、流失家屋 19、全壊家屋 2、床上浸水 304、床下浸水 244
	7 月 28 日	秋の長雨で洪水 松山町新町鉄砲町の裏には堤防がなく、かつ出水が夜中であつたため逃げ道を失い溺死する者多し
1886 (明治 19)	9 月 11 日	大洪水被害多し
1893 (明治 26)	10 月 14 日	高梁川大洪水 上房郡：死者 3 人、負傷 9 人、流失家屋 131、床上浸水 406、床下浸水 968

その他の郡史から抜粋した災害の年表

西 暦	月	災 害 の 内 容
1673 (延宝元)	5 月 15 日	西大川, 西原天神切巻倒巻 (連島町史)
1689 (元禄 2)	7 月 12 日	西阿知東光寺破堤 (連島町史), 水江村の堤防決壊 (船穂町史)
1707 (宝永 4)	8 月 19 日	8 月 19 日, 9 月 12 日に備前備中洪水あり (中洲町誌)
1708 (宝永 5)	6 月 22 日	大風と洪水あり (中洲町誌)
1717 (享保 2)	8 月 6 日	大風雨洪水 (船穂町誌)
1721 (享保 6)	7 月 11 日	備中大洪水 流失 280 余軒, 損壊 900 余軒, 死者 43 人 (中洲町誌)
	8 月 4 日	船尾村堤防決壊のため人畜死傷多数 (船穂町誌)
1748 (延享 3)	5 月 15 日	前代未聞の大水 (阿哲郡誌)
1755 (宝暦 5)		十二貫埋川破堤する (連島町史)
1763 (宝暦 13)	6 月 8 日	上十二貫埋川破堤する (連島町史)
1781 (天明元)	5 月 21 日	延享 (1746 年) に等しき大洪水あり (阿哲郡誌)
1785 (天明 5)	7 月 12 日	西大川巻倒大橋川水除堤破る。宮ノ浦水門流失 (連島町史)
1789 (寛政元)	6月17,18日	中新田切れ人畜死傷す (船穂町誌) 大雨によって高梁川堤防が決壊 河水が勇崎, 阿賀崎の村境にある元浜横土手を流れて勇崎村におしよせる。1 尺 5 寸 (約 4.5 m) 浸水し, 蔵の塩は流失した。
	8 月 12 日	西川, 左岸天神巻倒破堤, 川内, 玉島, 西ノ浦全域浸水 (連島町史)
1792 (寛政 4)	7 月 26 日	大風雨, 沿岸田地の流失 (阿哲郡誌)
1794 (寛政 6)		高梁川氾濫, 酒津ハヶ郷用水破損し万寿村水害あり (中洲町誌)
1808 (文化 5)	5 月 29 日	三日に亘る大雨で沿岸の被害多し (阿哲郡誌)
1809 (文化 6)		柳井原村幸田堤防決壊す (船穂町史)
1819 (文政 2)	5 月 23 日	二日間の大雨洪水, 諸川井堰多く流失 (阿哲郡誌)
1820 (文政 3)	6 月 15 日	三日間の大降雨, 堤防決壊井堰多く流失す (阿哲郡誌)

西 暦	月	災 害 の 内 容
1822 (文政 5)	8 月 8 日	大風大雨 近年稀有の洪水、破損多く、7 日の夜の大風で樹木の倒壊多し (阿哲郡誌)
1826 (文政 9)		船尾村上ノ原堤防決壊す (船穂町誌)
1850 (嘉永 3)	6 月 3 日	高梁川氾濫、安江及び四十瀬の堤防決壊し、その水が茶屋町まで及び床上浸水 5 尺 (約 1.5 m)。農作皆無となる。(都窪郡誌)
1852 (嘉永 5)	8 月 23 日	大風高潮、和田破堤、鶴新田弘化破堤 (連島町史)
1853 (嘉永 6)	8 月 4 日	米屋開破堤 (連島町史)
1868 (明治元)	5 月 18 日	高梁川洪水 (岡田村誌)
1869 (明治 2)	6 月 3 日	5 月 26 日より大雨続き 6 月 3 日に高梁川が氾濫し大洪水となる。 この大水は嘉永 3 年 (1850 年) の浸水より 7、8 寸 (約 20cm) 高く、この浸水は早島、茶屋町にも及んだ。(中洲町誌)
1880 (明治 13)	7 月 1 日	高梁川洪水 (都窪郡誌) 小田郡：罹災戸数 801、流失家屋 2、全壊家屋 2、床上浸水 757、床下浸水 30 賀陽郡：罹災戸数 1155、流失家屋 32、全壊家屋 10、床上浸水 568、床下浸水 507
1881 (明治 14)	5 月 6 日	三日に亘る大雨で大洪水。前年破損し復旧した箇所が再び破損。新見にて水位 7、8 尺 (約 2.4 m) になる。(阿哲郡誌)
1892 (明治 25)	9 月 25 日	暴風雨にて高梁川は前代未聞の大洪水となる。 井倉付近の水位は 2 丈 (約 6 m) になる。(阿哲郡誌)
1893 (明治 26)	10 月 14 日	高梁川大洪水 (岡山県水害史) 小田郡：死者 11 人、負傷 63 人、流失家屋 177、床上浸水 328、床下浸水 1223 賀陽郡：死者 7 人、負傷 2 人、流失家屋 288、床上浸水 176、床下浸水 2353 川上郡：死者 49 人、負傷 10 人、流失家屋 360、床上浸水 426、床下浸水 460
1899 (明治 32)	7 月 10 日	7 月 8 日から降り続く雨で県下三大河川は増水。河内村と連島村との境界の堤防が決壊。河内村、中洲村、北面新田、宮ノ浦、鶴新田、西之浦が浸水

(岡山県通史に見る災害の歴史)

昭和 5 年に岡山県が岡山県通史という岡山の歴史の本を発行した。その中で災害についての記述は、巻末の年表の中に僅かに見られる。その地域を見ると美作国ばかりであり、江戸時代岡山では津山藩のみが災害を公式な記録として残していたと推測できる。

年表より抜粋したものを記す。

岡山県通史から抜粋した岡山の災害の歴史（昭和5年 岡山県発刊）

西 暦	月	災 害 の 内 容
1607	9 月	美作洪水（成覚寺縁記）
1612	9 月 2 日	美作洪水 人畜多く死す。（富代記）
1617		英田川大水（青野村明細帳、石川家記）
1621		津山川大水（森記録、作陽誌）
1654	7 月 19 日	早魃（ばつ）に次ぐ洪水をもってし旭川あふれだす。（備前略史、美作略史、森記録）
1673		美作国洪水（郷村沿革絵図）
1710	8 月	美作大震 人畜多く死す。（松平記録）
1721	8 月	美作大風洪水（松平記録、風水届書）
1724	9 月	美作大風洪水（風水届書）
1731	8 月	美作大風洪水（松平記録、風水届書）
1739	8 月	美作大風洪水（松平記録、風水届書）
1769	6 月 8 日	美作洪水（風水届書）
1773	夏	諸国洪水
1786	6 月 16 日	関東大水 開府以来未聞と伝わる。
	8 月 29 日	美作洪水（風水届書）
1795	8 月 29 日	美作洪水（風水届書）、津山市街及び倉敷村水に浸さる。
1808	6 月 29 日	美作加茂川洪水（水害届書）
1838	7 月 21 日	美作、香々美川洪水（水害届書）
	8 月 10 日	美作 又洪水 沿岸大に崩れる。
1852	8 月 22 日	美作洪水 津山川 市街の大半が水に浸される。
1854	11 月 5 日	美作 地震（矢吹日記）
1871	5 月 18 日	美作洪水 津山川氾濫 市街の大半が水に浸される

(岡山県下の 1946 年南海地震、1972 年・1976 年台風被害)

岡山県で戦後起こった災害の記録はよく残っており、そのうち大きな被害のあった 1946 年南海地震と 1972 年台風被害、1976 年台風被害を記す。

1946 年南海地震被害報道

昭和 21 年 12 月 21 日 地震調査記録：地震被害調査（岡山県下） 岡山測候所

地 域	市町村	死 者	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	家屋小破
備 前 市	片 上 町			1		
	伊 部 町		2	1	10	
瀬戸内市	今 城 村				1	
	笠 加 村					1
	福 田 村					1
岡 山 市	光 政 村	8	65	146	188	260
	幸 島 村	6	1	69	199	63
	津 田 村	4	4	155	347	536
	九 蟠 村	2	19	24	129	
	豊 村		1	28	73	399
	西大寺町	5	6	11	24	
	金 田 村			7	7	66
	玉 井 村			1	5	
	朝 日 村				3	
	御 休 村					1
	雄 神 村					1
	可 知 村			4	1	

地 域	市 町 村	死 者	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	家屋小破
岡 山 市	岡 山 市			7	15	110
	福 島*	5	6	90	84	75
	興 除 村	2	10	200	100	
	藤 田 村	2	5	30	50	
	沖 田 村	4	7	223	321	
	操 陽 村		3	31	372	
	三 蟠 村	7	2	42	26	
	一 宮 村			5	2	24
	白 石 村			4	40	
	大 野 村			4	1	30
	今 村	1	1	8	7	
	妹 尾 町		2	3	9	
	吉 備 町			5		
	福 田 村			10	2	
	灘 崎 町	1	2	10	50	100
	甲 浦 村	1	5	6	17	50
	小 串 村			4	7	35

1972 年台風被害

(岡山県警本部調べ)

	警察署別 被害種別	岡山東	岡山西	岡山南	西大寺	御津	瀬戸	備前	牛窓	玉野	児島	倉敷	玉島	笠岡	矢掛	井原	総社	高梁	新見	勝山	津山	勝英	加美	計
人的被害	死者（人）		2										1		5			2	2		2			14
	負傷者（人）					2		1							5	2	2	4			1			17
	行方不明（人）																						1	1
建物被害	全壊（棟）					1									1	3	1	51	14	2	1	4	6	84
	半壊（棟）						1	2		1				1	2	3	1	20	16	3		2	1	53
	流出（棟）															3		15	3	1				22
	床上浸水（棟）	78	63		3	315	65	180						25	95	101	61	1,066	536	31	50	56	206	2,931
	床下浸水（棟）	588	463		43	772	733	90	5		18	4		120	280	204	64	4,543	2,946	722	875	152	252	12,874
	一部破壊（棟）	1			1	5				1	1				2	3	5	54	12			3		88
	非住家被害（棟）		1			5									1	4	4	31	13	2		1	2	64
耕地被害	水田流失埋没（ha）						5												66					71
	水田冠水（ha）	135	130		122	429	718	194	695			7		100	199	185	193	335	248	13	19	305		4,027
土木被害	道路損壊（カ所）	3	9	1	3	29	11		2	1		5	2		9	16	30	55	283	7	15	21	7	509
	橋梁流出（カ所）				1	9	4		1								2	13	82	1	6			119
	堤防決壊（カ所）		3		1	1	2	1									1	1	1				1	12
	山（がけ）くずれ（カ所）	2	2		3	12	20	1	2	2	1			1	3	19	4	6	103	3	4	10	6	204
	鉄軌道被害（カ所）					1	1											1	4				1	8

注：岡山県は、9月10日、岡山県災害対策本部を設置するとともに、3市(岡山・備前・笠岡)11町(日生・吉永・和気・美作・長船・邑久・牛窓・矢掛・作東・真備・熊山)に災害救助法を適用した。

1976 年台風被害

(岡山県警本部調べ：昭和 51 年 9 月 30 日)

		署	岡山東	岡山西	岡山南	西大寺	御津	瀬戸	備前	牛窓	玉野	児島	倉敷	水島	玉島	笠岡	矢掛	井原	総社	高梁	新見	勝山	津山	勝英	久米南	計
人的被害	死者	人	1					1	6							6				2	1	1				18
	行方不明	人																								
負傷者	人	人		1	1	1		3	37	7	1	4			5	18	3		2	3			1	6		93
建物被害	全壊	棟		1		6		1	62	23	1	1			3	30	5	2						2	1	138
	半壊	棟				1	1	2	80	101		2	1		4	32	1	1	7						1	234
流出	棟	棟							14																	14
	全焼	棟																								
半焼	棟	棟																								
床上浸水	棟	棟	101	113	263	2,019		134	1,528	1,250			1	1	11	131	390	2	102				4	271		6,321
	床下浸水	棟	1,027	2,325	3,947	5,884		1,013	3,742	3,931	33	55	511	32	481	1,128	171	47	572	55	1	2	115	1,626	27	26,725
一部破壊	棟	棟				7	1		428	341	2	8			2	84	12		21	5			7			918
	非住家被害	棟		3	47	4	3		7	58		2			2	22	3	2	1	6			1	3	5	169
耕地被害	水田	流失・埋没	ha			2		8	42	130							2		1					56		241
	冠水	ha		479	522	2,861		536	663	1,739	300	30	25			302	182	5	952		4			600		9,200
畑	流失・埋没	ha				15			3	124						14								55		211
	冠水	ha		6	8	263		21	211	122							11		18	22				50		732
道路損壊	箇所	箇所	1	21	15	76	14	147	117	474	3	20	6		7	6	176	14	371		13	2	25	43	2	1,553
	橋梁流出	箇所		1				5	33	16					1	1	2		3				2		1	65
堤防決壊	箇所	箇所				11		5	83	131		1			2	5	50		2	1				1		292
	山(崖)くずれ	箇所		19	8	65	1	35	90	312	3	30	4		12	431	50		64		1	2	11	5	2	1,145
鉄軌道被害	箇所	箇所							4							1					1			1		7
通信施設被害	回線	回線	300	228	200	261	43	70	640	350	124	92	300	149	113	207		211	91	395	52	137	336	90		4,389
木材流失	m³	m³																								
山林流失	ha	ha																								
船舶被害	沈没	隻							4																	4
	流失	隻							4																	4
破損	隻	隻																								
	ろかい等による	隻							4																	4
り災世帯数	数	数	101	114	263	1,666	1	92	1,691	1,154	1	3	2	1	20	164	396	5	119				4	273	2	6,072
	り災者数	数	397	410	999	5,817	1	327	5,952	4,124	3	10	11	5	77	610	1,420	18	477	5	1	1	16	930	5	21,616